

2000年9月号

<主な内容>

教会役員一覧(2頁)

北米ホーリネス教団の歴史(3頁)

サファナンド教会のミニストリー(4頁)

OMS Holiness Church of North America

<http://www.omsholiness.org>

いせ いせ 聲

Web Version

『ビッグ・ジョン』主のみもとに



「ビッグ・ジョン」または「B J」の愛称で、若い人々から親しまれていた松永ジョン師が八月二一日午前一時ごろ、ハート・アタクで、主のみもとに召されました。(ウエストLA教会の九月ウェブページに松永ジョン師関連の記事が数多く掲載されています。【写真提供】ウエストLA教会】

松永師は、この四月にホノルル教会に転任されましたが、それまで、ウエストロスアンゼルス教会副牧師として、同教会のユースだけでなく、全教団のユースのために働いてこられましたので、ロスアンゼルス地区でのメモリアル・サービスが次のように行われます。

日時 九月九日(土)午後三時
会場 Bel Air Presbyterian Church (6221 Mulholland Drive, Bel Air) 黒田章師の葬儀が行われた場所です)

二〇〇〇年

教団総会報告

常務書記・藤岡二郎

教団総会の決議事項

教団総会ではプロボジョン一、二、三が審議されそれぞれ提案道り可決されました。
教団行事の年度予定
教団全体としての行事は次のとおりです。

牧師リトリート：二〇〇一年一月二九日～二月一日
夏期修養会：七月三～七日
教団総会：七月一二日牧師会、一三、一四日総会(LA教会)

常務委員会は次のように開催されます。

十月二〇、二二日(ウエストオアフ教会) タウンホールミーティング

一月二六～二七日(オレンジカウンティー教会) タウンホールミーティング
五月四、五日(会場未定)
各地域ごとの世界宣教大会などの行事は未定です。

常務委員会議長および委員名

議長：溝口俊治師(再選、LAHC)

教会開拓委員会：ロバーツ・ジョン

師(留、FMACC)

教育・出版委員会：辻本ルース姉

(留、HCC)

財務委員会：小田ジーン兄(新、FMACC)

伝道委員会：吉谷礼子姉(新、JCC)

教理・調査委員会：米本ロブ師(再、SFVHC)

任命委員会：仲村ブライアン師(留、SDJCC)

福祉委員会：中辻ポール兄(留、MLAHC)

ペンション委員会：満留アート兄(留、MCJCC)

世界宣教委員会：岡田千恵子姉(新、LAHC)

ビジョン・総合力研究委員会：伊達スタン兄(留、SFWC)

教団職員

常務書記(日)：藤岡二郎師(新WJJC)

常務書記(英)：山下ゲリー兄(留、SLZJC)

SLZJC)

教団会計：奥井國男兄(再、SLZJC)



北米ホーリネス
教団(日本語部)

二〇〇〇年度

教会役員一覧

牧師と共に執事、理事(伝道所の場合役員)として教会のためご奉仕くださっている方々を覚え祈りましょう。

教会名は略称です。敬称は省かせていただきました。

フリーモント(牧師・松田和彦)

サンロレンゾ(牧師・細見剛正) 宮

口真、平本敦代、スマート敦子、

鈴木央子(以上執事)、入江光瑞、

恩田儀重、クラーク・ナサニエル、

レオン・裕子、岩瀬昌幸(以上

理事)

サンタクララ(牧師・中尾邦三) 中山輝夫(議長、伝道)、西島隆(アレンジメント)、山崎静子(渉外、宣教)、邵 俊子(受け取り会計)、松田八重子(集会)、伊藤直道(福祉、記録)(以上執事)、岡田タム、松田ジミー、内海久須子(以上理事)

ウォールナツ・クリーク(牧師・藤岡二郎牧師、アイリックあきこ(議長)、フロレスかずよ(副議長)、ハミルトンしのぶ(書記)、青野 晃(伝道)、山田あきお(賛美)、日浦エマ(賛美)、シンブソソみえこ(礼拝)、グレッグ道子姉(フェローシップ)、杉本礼子姉(会計)

ゴスペルベンチャー(信徒リーダー・前原利夫)

ロスアンゼルス(牧師・溝口俊治) 永井祥太郎兄(礼拝部と主事)、広津博義兄(総務部)、河源祥兄(伝道部)、坂本博子姉(財務部)、高吉博美姉(敬愛部)、篠田春美姉(共育部)

サファナンド・バレー(牧師・鍵和田哲男) タッド収、渡部昌子、小野滝恵(以上執事) 高田 勇(理事)

サンゲブル・バレー(牧師・大川道雄) 東 郁恵、岡田清子、木谷淳子、小松秀興、中村敏幸(以上執事)、池原一雄、尾形喜代子、カリー薫江(以上理事)

サウスベイ(信徒リーダー・安藤秀世) 井上幸江、浦崎直子、藤本純夫

サウザンド・オークス(信徒リーダー・羽生 満)

ウエスト・ロスアンゼルス(牧師・古山 隆) 安達聖詩、牧 良夫、松本、渡辺幸栄、倉信、田中、千田

ホイッテヤ(牧師・大川道雄) 前田 実、柴 ジム、アレックス・ファীগソン、ハリスれい子、上野愛子

オレンジ郡(牧師・杉村 幸) 佐藤裕士(伝道)、古賀聖美(教育)、糸山 愛(礼拝)、レイ幸枝(共愛)、フィゲロア清子(会計)、杉山きよ子(理事)、西原貴子(理事)

ランチョ・ラコスタ(牧師・大倉信) 執事光岡節子姉、ジンメルマン靖子姉(以上執事)、光岡恭平兄、財満早月姉、リード涼子姉(以上理事)

サンディエゴ(臨時牧師・吹上信一) 福島ディック(議長)、本多秀行(副議長、総務)、中馬恵子(伝道・宣教)、ピータース道子(礼拝・集会)、ワイトナック典子(教育)(以上執事)、沖久 清、ラッドとし子、竹永正子(以上理事)

ビスタ(牧師・山口 光) マンウエアリング悦子、デイ美智子、ヤング敦江、ムレイふじ子、コール智子

ホノルル(牧師・鈴木栄一) 鈴木芳治(議長、海外宣教)、玉川トーマス(副議長)、山本美智子(総務)、橋本マイク(集会)、肥田仁司(教育)、谷戸千里(伝道)、平子和子(祈祷)、ウィルソン美代子、比嘉ウイニー(財務管理)、野村二枝

ウエスト・オアフ(牧師・中村裕二)

ツーン(牧師・本多一米) Miho Akashi、Philip Gabriel、Junko Gabriel、Gordon May、Naoko Peters、Reiko Yoshitar、Takako Welch(会計)

ラスベガス(信徒リーダー・安藤秀世)

東洋宣教会・北米ホーリネス教団史(その十九)

戦後篇

オレンジ郡キリスト教会牧師・杉村宰

前回、フレンド派の人々が私達日系人に対して、寛大であったほとんど唯一のアメリカ人教会ということを記したが、たまたま、ラミラダにフレンド派の教会がある人とつてに聞いたので連絡をしてみた。一つには、八十年前にホイッテアーのフレンド派の教会が始まった私達北米ホーリネス教会のルーツを調べたかった(ホイッテアーのフレンド派の教会が日本人伝道に門戸を開いてくれたことによつて、私達の教会が産声を上げた)ことと、もう一つは、フレンド派の教会が排斥のただ中であつた一世、二世に対して、どうして寛大であり得たのかということを知りたかつたのである。

何人かの人達を通して、やつとその教会の図書館司書に話すことが出来て上記のことを伺つてみたのだが、彼女はかつてホイッテアーに彼らの姉妹教会があつたことも、彼らが日本人や日系人に対し

て親切の限りを尽くして援助をしてくれたことも知らなかつた。ただ彼女は、「私達の教会が社会正義に対して勇敢に闘つてきたことは、他の事例に關してもありません」と語つていたので、彼らの信仰として、弱者や虐げられている人達に援助をするという社会正義に対する信仰的伝統が受け継がれていたのであらう。その電話での会話の最後に、「あなたがたが日本人や日系人に対してとても親切にしてくれた事を心から神に感謝をしています」と言わせていただいた。いつか私達の教団並びに、日系人教会、日系人社会が近い将来に、彼らに対して何らかの謝意を表する時が来るようにと祈らされてゐる。

それまで転住所に幽閉されていた人達や、東部、中西部に散在していた人達を迎えたロサンゼルス教会は、「ホーリネス・ホステル」と呼ばれたが、その当時の様子を

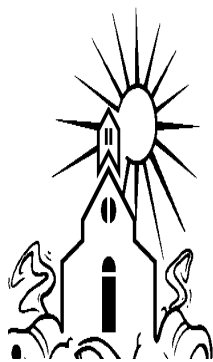
末広栄司牧師は、次のように述懐している。

「わたしは一九四五年三月に帰つてきましたが、ロサンゼルス教会の建物は、インディアンに貸しておりましたので、私達の集會は出来ずにおりました。三五番街と二八番街の牧師館も貸しておりました。そこでわたし達家族はアメリカ人の友人宅に住まわせてもらひ、私は生活費を得るため、ガーデナーの仕事を始めることになったのです。でも次第に今まで貸しておりました建物が空いてくるようになりましたので、祈り會が始まりました。またロサンゼルス教会の隣は、他の教団所属の教会でしたが、それが空きましたので、今度はそれをホステルとして利用しました。會員が増えるにつれて礼拝がもたれ、家庭集會も始まるようになったのです」(「喜びの泉」一九七二年)

一九四六年八月にロサンゼルス教会で開かれた戦後最初の教団總會の写真は実に興味深い。その中の牧師達の顔ぶれをご紹介しよう。前列右から、黒田章師、小原十三司師(淀橋教会牧師で、沖本妙子先生のご尊父)、沖本為一師、新里貫一師(盲目の当教団巡回伝道者)、末広栄司師、葛原定市師、八尋ジョージ師、佐久間英師、福田吉郎師、篠田ダニエル師、木村連師の面々である。恐らく小原先生が北米を問安するに當つて、教団總會の時期を選ばれたのではなからうか。この写真には葛原定市師が中央に座しているが、先生はこの總會で名誉監督に推され、末広先生が監督になったものと思われる。葛原先生はシカゴで伝道するようになってから、佐久間先生、葛原千秋先生、橋本泰先生と共に、「シカゴ特殊伝道」と言つて、かの地に残つて伝道することを決意していたようである。

一九四七年の機関紙「靈声」には、シアトルに末広栄司師のご兄弟、和市師が牧師として遣わされているとある。シアトル伝道は一九三四年に末広栄司先生によって始められているが、一九六六年には残念ながら閉鎖されている。先

日、卒寿を超えて尚健在なロサンゼルス教会員の古谷轟兄姉（現在はご子息の所属されるフリーメソジスト教会に通っておられる）のお宅に、教団の歴史をヴィデオ撮りするためのインタビュアーに行つた所、かつて名古屋近郊の犬山にある「明治村」を訪れた時の写真を見せてくれた。そこにはシアトル伝道の拠点であつた当時のホーリネス教会の建物が、北米からの唯一の建築物として残されている。私自身は明治村には行つたことはないが、かつて教団の歴史をしたためた時に、その様子を「シアトル・タイムズ」で読んでいたので、その写真を見た時に、私はあたかも嫁入りした娘に久しぶりで会うかのような、ほのかで甘美な錯覚を覚えたのである。明治村の北米で唯一の代表建築物が、かつての私達の伝道の拠点であつたとは誰が想像し得たであろう。これを神のなさるくすしいみ業と言わずに、何と言えよいのであろうか。



わたしたちの教会の ミニストリー

サファナンド教会・鍵和田哲男

私たちサファナンド教会日語部では、主に婦人会が中心となつて様々な活動が進められています。英語部にもいつも好評な「うどんランチョン」は、英語部と日語部の良い交わりの場として用いられると共に、そこにささげられた献金は、英語部や日語部の様々なミニストリーのために用いられています。

また、二年ほど前に二、三人の留学生在が教会に導かれたのをきっかけに、牧師宅において「青年の集まり」がスタートし、婦人会がその食事を交代で作ることを通して、青年伝道に直接的には加わる場の少ない婦人会も、その伝道の業に与つていきます。これまでに受洗した六名の青年を含め、十名のクリスチャン青年の他、五、六名の求道者が定期的に礼拝などの集会にも出席しており、今年からは「青年会」として、自主的な活動も始められています。

私たちの教会には男性が少なかつたのですが、最近はお客員の方々も含めて八名ほどの壮年男性が礼拝に集まれるようになりました。男子会としては、今のところは年始にもたれるすき焼き会の主催と、母の日にお母さん方にお花をプレゼントすること意外の活動はありませんが、今後は伝道活動を含めて、様々なミニストリーを進めていきたいと願っています。

また、教会内の自主的なミニストリーとして、ワーシップチームがあります。このチームの働きは、讃美歌の奏楽メの働きと共に、礼拝の中で賛美を通して一人一人の

心が主に向けられるのに用いられています。

教会の全体的なミニストリーとしては、主に外部に対するミニストリーよりも、特に聖書クラスを中心とした「クリスチャンを立て上げる」働きに、現在は力が入れられています。しかし、そこに何人かの求道者も導かれていたり、十年以上教会から離れておられた二名の姉妹が、信仰を回復されるなど、クリスチャンの成長と共に、そのような実が結ばれる祝福にも与つていきます。さらに、それらの聖書クラスの学びを録音し、それを希望する方々に実費で分けたり、重荷をもつて祈つている人々に送つたりするなどの働きが自主的に行われています。その働きを通して、いくつかの聖書クラスの学びが、そこに出席されていない方々（他教会の方々も含めて）のために、毎週二五本ほどダビングされて用いられています。

今後は、伝道活動の方に少しずつ重点を移しながら、また、一人一人の自主性を尊重しながら、教会のミニストリーを進めていきたいと願っています。